

令和2年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	3年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価 (3月3日)		学校関係者評価 (3月19日実施)	総合評価 (3月25日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①自己効力感を高め、他者を尊重する姿勢を育成する教育活動を行う。</p> <p>②生徒が自ら学び考える学習指導・支援に組織的に取り組み、生徒一人ひとりの進路等の目標を実現させる。</p>	<p>①授業、学校行事、部活動等で達成感を持たせる経験を積み重ね、生徒の活動意欲を引き出す。</p> <p>②授業以外でも学びを続けられる環境を整え、生徒に働きかける。</p>	<p>①目標達成に向けた段階的な課題設定と、それに対する形成的評価を行う。</p> <p>②ICTを活用し、生徒が自学できる環境を組織的につくる。</p>	<p>①授業改善の状況、生徒による授業評価やアンケート、振り返りの結果</p> <p>②授業時間外に活用できる学習手段の提供状況</p>	<p>①形成的評価を踏まえて各教科が年間目標を作成している。9月に第1回生徒による授業評価、10月に授業見学期間、11月に授業改善研修会を実施した。</p> <p>②ICTを活用し、生徒自ら個人情報を管理し、授業に活用した。</p>	<p>①例年と学校全体の動きが違っても多かったため、授業見学の実施数は昨年度に比べて減少した。少なくとも昨年度と同様の授業見学機会を設けられるよう、職員への動機づけが必要である。</p> <p>②様々な環境からICTが利用できるようにIDを利用しやすいものにする。</p>	<p>・学校教育目標として具体的に育てたい生徒像を描いた上で、生徒の現状を把握し目標達成に向けた課題設定、実践、生徒アンケートによる振り返り等、改善に向けた取組はPDCAサイクルにより実施されており評価できる。</p> <p>・コロナ禍で想定外の取組など困難さが多くあり、学習指導が難しくなったと思う。</p> <p>・ICTはコロナ後においても有効な手段と考えるので積極的な活用が必要と思われる。</p>	<p>①授業改善について、研修会や授業評価アンケートを活用して、授業改善策の検討や実践の共有を図った。感染症対策による制約のある中で、言語活動を充実させるかが課題である。</p> <p>②ICT機器を活用した授業実践について、研究をかさねての実践ではなく、実践していく中で課題を見つけ、その改善を進めざるを得なかったが、その反面、ICT機器活用について、悩みや実践例を共有する機会も多く、日常的に校内での研究がすすんだ。</p> <p>③ICTを活用し、生徒自ら個人情報を管理し、授業に活用することがある程度出来たが、学校のデバイス以外からの利用が難しかった。</p>	<p>①各教科内、教科間で授業改善の実践例などを共有するだけでなく、中学校との連携を授業改善に生かせるとよい。</p> <p>②ICT機器の活用については、引き続き環境の整備、各職員のスキルアップのための情報の共有をすすめていく。</p> <p>③生徒が様々な環境からICTが利用できるようにID等を工夫する。</p>
2 生徒指導 ・支援	<p>①他者尊重を基盤に、生徒の規範意識を醸成し、自律した行動を取れる力を育てる。</p> <p>②組織的な教育相談体制を充実させ、生徒一人ひとりが安心できる支援を行う。</p>	<p>①規範意識の必要性を生徒に理解させ、適正な行動を考えさせる。</p> <p>②支援的観点の理解を深め、個々の生徒の支援にいかす。</p>	<p>①組織的に他者尊重の大切さを伝え、生徒が振り返り考える機会をつくる。</p> <p>②生徒支援に係る研修を行い、生徒情報の共有を進める。</p>	<p>①学年や、授業・部活動等の担当者の自己評価、生徒の振り返りの結果</p> <p>②研修会の実施状況、学習時等での生徒支援状況</p>	<p>①自身の行動が周囲に与える影響について様々な場面で伝えることができた。</p> <p>②生徒状況調査を基にしたサポート会議とその情報共有会議、「生徒の困り感を探る」をテーマとしたスクールカウンセラーによる研修会(生徒指導部との共同研修)を実施した。</p>	<p>①集会等を実施できない環境下において、全校生徒への周知の方法についての模索が必要と考える。</p> <p>②ケース会議の開催や学習時の支援策の検討が必要。</p> <p>生徒の状況(困り感等)を把握するために研修会の内容をいかしていく。</p>	<p>・他者尊重を基に規範意識の醸成を図るための組織的な展開や自身が他人に与える影響を理解させるなど、社会で必要となる資質・能力の育成の取組は評価できる。</p> <p>・バス乗車の際、数年前までは割込む生徒が多かったが、そういった姿を見なくなった。また来訪者への挨拶が出来る等、成果の現れの一つと言える。</p> <p>・服装が乱れた生徒を見かけることがあるので注意が必要と思われる。</p>	<p>①規範意識の必要性を生徒に理解させ、適正な行動をとることができるよう指導することができた。</p> <p>②生徒状況調査、サポート会議とその情報共有会議、スクールカウンセラーによる研修会の実施やスクールカウンセラーの利用状況の増加により、生徒一人ひとりへの支援や教育相談体制が充実した。細やかな指導のために継続した取り組みが必要である。</p>	<p>①集会等の実施ができない場合における各HRでの指導の徹底の具体的手法について考察していく。</p> <p>②生徒の困り感は家族・友人関係、進路、コロナ禍の不安感など多様化している。スクールカウンセラーの活用や生徒の状況把握を中心に教育相談体制の充実についてさらに努力していきたい。</p>

	視点	3年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価(3月3日)		学校関係者評価 (3月19日実施)	総合評価(3月25日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	○生徒が主体的に進路目標の設定をし、実現のための行動が継続できるように、指導・支援の体制をつくる。	○見通しをたてられる情報提供、組織的な個別支援により、生徒に目標実現への計画的行動を促す。	○担当グループ・学年を中心に、学校全体で生徒を支援する体制をとる。	○キャリア・サポートへの生徒の記載内容、進路個別支援の実施状況	○総合探究やLHRの時間を利用して、面接練習、小論文練習など進路実現に向けての指導を行った。	○大学体験やオープンキャンパスへの参加など外へ出ていく活動が難しい状況なので、それに代わる活動を考えていく必要がある。	・生徒一人ひとりが主体的に目的意識を持って進路選択が出来る体制づくりを目標として取り組んでいる。自身の能力や弱点を知る機会をつくる工夫のほか、インターンシップ、地元企業、OBとの交流によるコネクションの活用なども支援に繋がる一つの方策であると思う。	○総合探究やLHRの時間を利用して面接練習、小論文練習や大学についての調べ学習など進路実現に向けての指導を行った。一方で十分な時間確保が出来なかったことが課題であった。	○大学体験やオープンキャンパスに代わる活動を考え取り入れていく。
4	地域等との協働	①幅広い地域資源を活用した教育活動を行い、他者を尊重する態度や規範意識、豊かな人間性を育成する。 ②地域貢献活動やボランティア活動に取り組む意欲や行動力を育成する。	①地域資源の活用範囲を広げる準備を進める。 ②通常の教育活動が難しい中、可能な地域貢献活動やボランティア活動を行う。	①再編・統合相手校の活動の引継ぎを検討する。 ②安全に行える活動・方法を吟味し、生徒に働きかける。	①活動の見学状況、担当者間の調整状況 ②実施できた活動と工夫の状況	①逗子高校1学年の「総合的な探究の時間」を研究・広報Gの職員1名が見学した。逗子高校の取組について次年度の本校の取組に生かせる内容を検討中である。 ②今年度は感染症拡大防止、安全を優先して地域貢献活動は中止した。	①今まで本校が取り組んできた活動と時間的な制約がある中でどのように逗子高校の取組を引き継ぐかを考える必要がある。 ②生徒の安全を確保したうえでおこなえる活動について検討するとともに、保護者・地域の理解を得る必要がある。	・活動が制約される中逗子高校との地域貢献活動が制約される状況において、再編統合に向け、逗子高校の取組状況を視察するなどの活動は評価できる。 ・活動自体が難しい状況ではあるが、出来ることから少しずつ地域との繋がりが持てるよう取り組んでいく必要がある。また、地域から助けていただく事も視野に入れてはどうか。	①逗子文化プラザ市民交流センターとの打ち合わせを通じて、逗子高校の取組を引き継げるように準備を進めている。今後具体的な計画を立てる必要がある。 ②今年度は感染症拡大防止、安全を優先して地域貢献活動は中止した。保護者、地域の理解と協力のもと、地域との結びつきをもてる活動を考える必要がある。	①関係各方面との連絡・調整・連携をすすめていきたい。  ②生徒の安全を確保したうえで活動を検討するために、地域、生徒会との連携をすすめていきたい。
5	学校管理 学校運営	①新校開校に向けた準備を進め、地域や中学生に支持される新校として開校する。 ②在校生・保護者を第一に考え、安心安全な学校づくりを一層充実させる。 ③職員が心身ともに充実して生徒と向き合えるように、働き方改革を推進する。	②生徒・保護者への丁寧な対応、事故防止の徹底、適切な情報提供により、安心安全な学校づくりをする。 ③職員の長時間勤務の是正に取り組む。	②支援的視点を持った対応、業務手順の整備と順守、わかりやすい情報提供を行う。 ③会議時間を減らし、グループウェア等による情報共有と課題調整を行う。	②生徒・保護者アンケート結果、逗葉ハンドブックの整備状況、逗葉メール・学校ホームページ等の情報発信の頻度 ③勤務時間内に会議が終了した割合、グループウェアの活用状況	②各グループ・教科等と情報を共有して業務に取り組むことができた。 ③PTAとも協力して、職場環境の充実に努めた。コロナの感染予防のため、換気、手洗いを徹底した。	①新校に向けた準備に課題あり。 ②在校生が安心安全な学校生活ができるためのコロナに対する消毒等に課題がある。	・教育環境が変化する中で、両校でのきめ細かな学習支援を継続し、学校全体の教育力の底上げに取組み、地域や社会に開かれた学校運営を期待している。 ・新校準備、コロナ対応と大変ではあるが、職員が心身ともに充実して生徒と向き合えるように、働き方改革を推進されることを期待している。 ・誰もが経験したことがない中で見えてきた課題や発見を、新しい学校経営に繋げていきたい。	・生徒の学習意欲に応えられるよう準備を進めていたがコロナの影響で休校、時短のため学習状況が大きく変化してしまった。 ・逗子高校との再編統合については、両校のグループリーダーと協力を通じて新校に向けての課題の共通理解をはかった。今後は両校の特徴を生かしつつ、どのような学校にすべきかを明確にしていく必要がある。	・学習活動が制限された中で、リモートを利用して、学習の不足分を補う方法を模索している。 ・新校準備に関しては逗子高校と両校のグループ・教科で物品の具体的な項目リスト作成に着手しているが、大量の仕分けに工夫が必要であり、より具体的な検討を進めている。